

# 4,000トンノッチタンクからの滴下について

平成26年6月16日

東京電力株式会社

# 1. 発生事象

## ■概要

- 4,000トンノッチタンク群には汚染水タンクエリア堰内に溜まった雨水を仮貯留してきており、1,000トンのノッチタンク群と3,000トンのノッチタンク群に分かれている。
- 4,000トンノッチタンク群のうち、1,000トンのノッチタンク群に含まれる、No1-3およびNo1-5タンクの側面上部のボルト付近から、貯留していた汚染水タンクエリア堰内雨水の漏えいが発生した。

## ■時系列

- 6月2日午後3時頃、1,000トンのノッチタンク群における2つのタンクの側面上部のボルト付近から水が漏れていることを、パトロール中の原子力規制庁保安検査官が発見。
- その後、当社社員が現場確認を行うとともに、ノッチタンク間の連結弁を閉止し、応急処置（ビニール袋にて養生）を実施。
- 同日午後7時40分頃、当該ノッチタンク群の水を3,000トンのノッチタンク群に移送し水位を低下させたことにより、漏えいが停止したことを確認。

# 1. 発生事象

## ■漏えい状況

➤漏えい量 : 4.0m<sup>3</sup> (堰外に流出したのは3.4m<sup>3</sup>)

➤漏えい範囲 : ドレン弁から約5m×約40m

※ 当該ノッチタンク群は、汚染水タンクエリア堰内雨水を一時的に貯留するものであったことから、当該ノッチタンク群の堰については管理対象外としており、排水弁は開いていた。

➤漏えい水 : 汚染水タンクエリアの堰内雨水

※ 平成25年8月に漏えいが発生したH4エリアの堰内雨水を含む

➤漏えい水の分析結果 (平成26年6月2日 採取・分析)

|        | ノッチタンク内の水   | ノッチタンク群周辺の<br>堰内溜まり水 |
|--------|-------------|----------------------|
| Cs-134 | ND (13Bq/L) | ND (12Bq/L)          |
| Cs-137 | ND (18Bq/L) | ND (17Bq/L)          |
| 全β     | 72,000Bq/L  | 9,800Bq/L            |

※NDは検出限界値未満であることを表す。

## 2. 推定原因

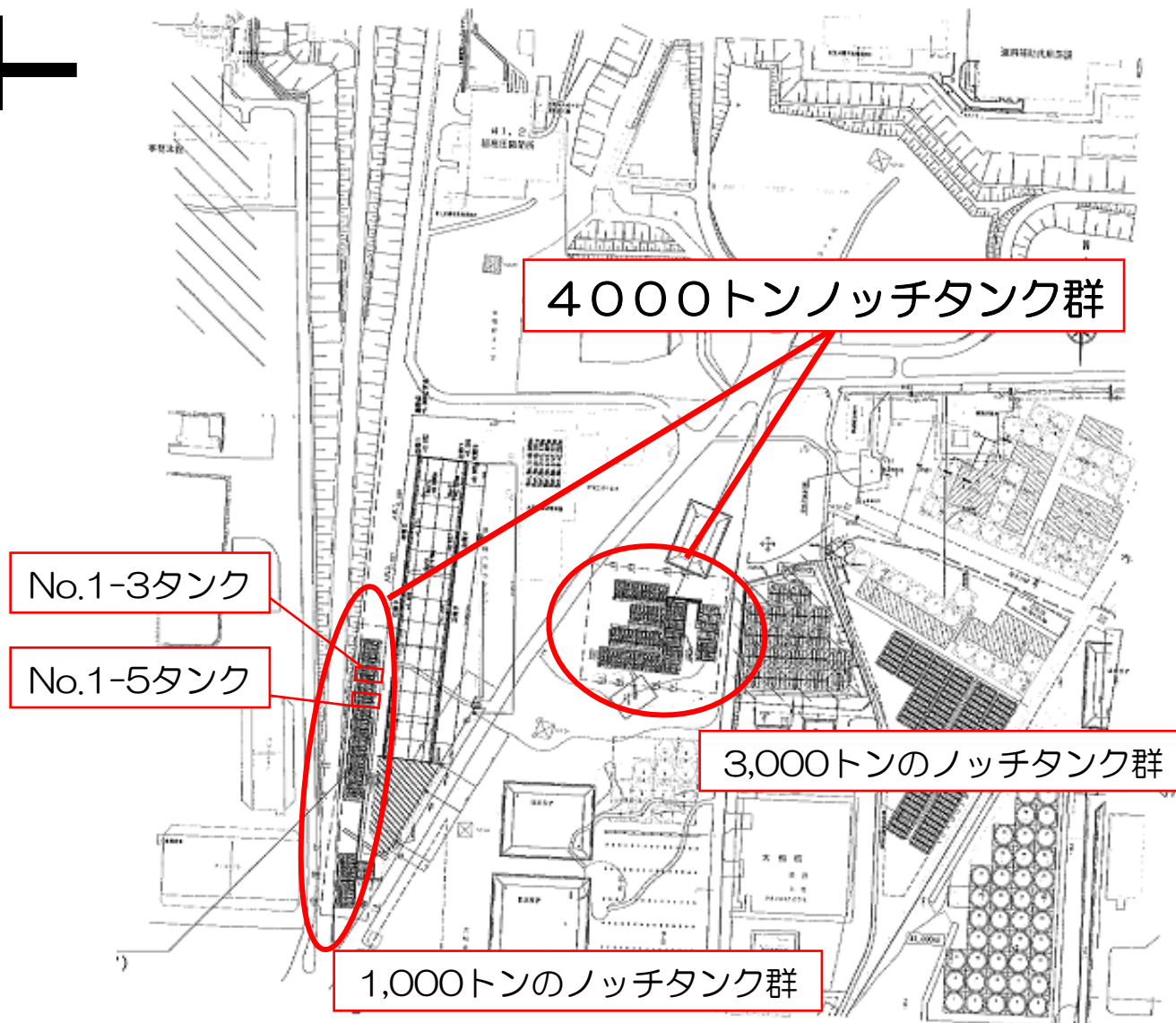
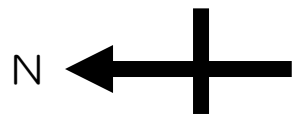
- 平成25年10月頃、1,000トンのノッチタンク群に汚染水タンクエリア堰内雨水の移送を実施。その際、ノッチタンク天板からの水位が20～30cmで移送を終了したことを確認。
- その後、1,000トンのノッチタンク群への汚染水タンクエリア堰内雨水の移送は実施していない。
- しかし、タンク天板の開口部から雨水が浸入し、タンク水位が徐々に上昇。タンク天板上部から11cmにあるボルト穴から滴下に至ったものと推定。
- また当該タンクは、パトロールを実施する対象としていなかったため、漏えいを早期に発見することができなかった。



### 3. 対応状況

- 漏えいがあったノッチタンク周辺堰内に溜まった水（約4m<sup>3</sup>）について回収を実施（6月3日実施済）
- 堰外に漏えいした範囲（約5m×約40m）に対して土壌回収（約31m<sup>3</sup>）を実施（土壌回収後の線量測定の結果、10μSV/h以下であることを確認）（6月7日実施済）
- 堰内雨水を貯留している4,000トンノッチタンク群について、毎日パトロールを実施（6月4日～）
- 4,000トンノッチタンク群の堰に設置しているドレン弁について閉とした（6月5日実施済）
- 4,000トンノッチタンク群全てについて、上部からの雨水侵入箇所について、雨水の侵入防止対策を実施（6月5日実施済）
- 今後、1,000トンのノッチタンク群に貯留している汚染水タンクエリア堰内雨水について、速やかに移送していく。
- なお堰の排水弁閉に伴う堰内雨水量増加対策として、堰に対してカバーを設置も実施（6月5日～）

# (参考) 発生位置



# (参考) 現場状況写真



漏えい箇所 (No1-3)



漏えい箇所 (No1-5)



ドレン弁の状況



ノッチタンク堰内の状況

撮影日：平成26年6月3日

提 供：東京電力株式会社

# (参考) 対応状況写真



雨水侵入防止状況



土壌回収状況



堰カバー設置状況  
(1,000トンノッチタンク群)



堰カバー設置状況  
(3,000トンノッチタンク群)